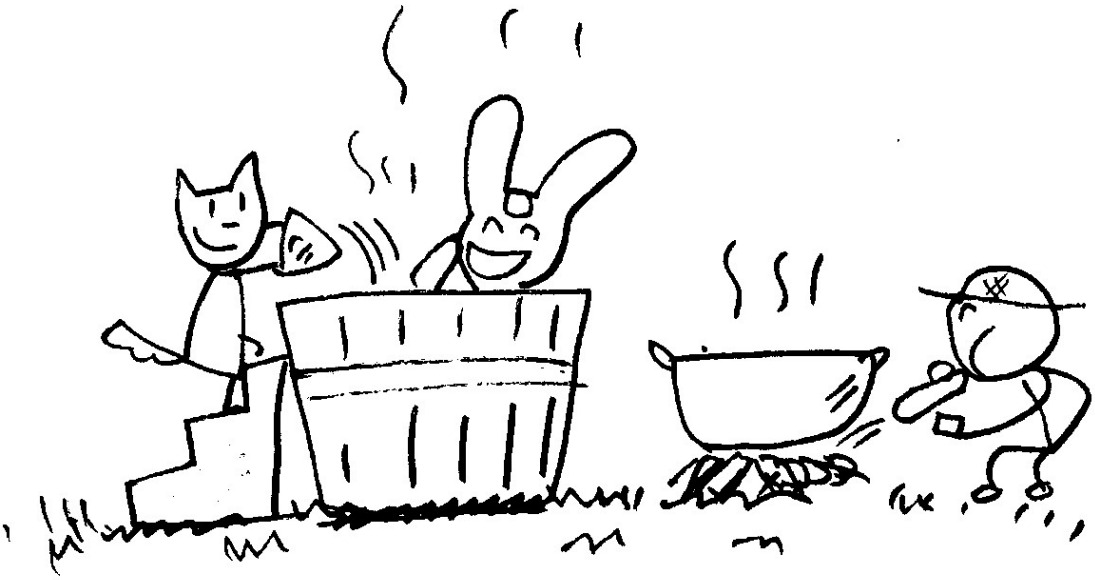
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶ・ま～ゆ会報 No.25 2005年9月10日発行



わたしたちの願い

蚕都くらぶ・ま～ゆという上田地域通貨モノコト交換制度は、地域で暮らすひとびとがお互いに助け合って楽しく暮らすための制度です。

私たちは、この地域の豊かな自然やひとびとの知恵・技術・経験・人柄を地域の宝と考えます。その宝を活用することで、より豊かな地域と人間関係を目指しています。

蚕都くらぶ・ま～ゆは、地域通貨を使って人と地域をつなぐシステムです。

- ❖ 人と人との新しい関係が生まれます。
- ❖ 自分の能力を再発見できます。
- ❖ 人が活き活きすることで、地域が元気になります。

愛・地球博の成果生かせ

加藤敏春・エコミュニティ・ネットワーク代表理事

戦時中製造された陶貨を復刻し再生陶土で造った「EXPOエコマネー」＝愛知県瀬戸市西茨町の武田電磁器製陶

エコマネー、地域通貨の発展はめざましい。日本国内では約800種類に増え、全世界の約16％を占めるまでになった。「自然の叡智（えいち）」をメーンテーマに愛知県内で開催されている「愛・地球博」にも、その一つ、EXPOエコマネーが実験的に導入されている。このエコマネーを提唱した加藤敏春・エコミュニティ・ネットワーク代表理事(51)は愛・地球博での成果をその後に生かそうと訴えている。今回は加藤氏にエコマネーの可能性を聞いた。

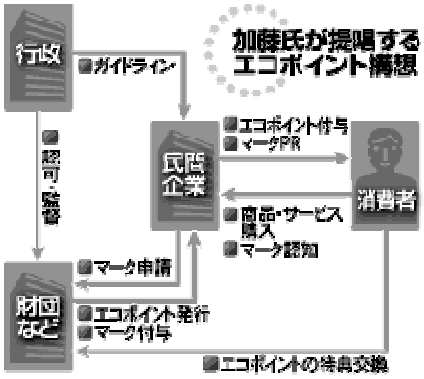
7 月 22 日の東京新聞から

■ 21世紀はエコマネーの時代 ■ レジ袋辞退ならポイント

――エコマネーの基本的概念とは。

お金は国家が独占して発行してきたが、21 世紀は市民が発行するお金が必要だ。それがエコマネー。環境や福祉などの問題解決のため、行政、企業、市民が協働して新しい街づくりを展開する。エコマネーはこの取り組みに参加してくれる人たちの活動を評価する尺度でもある。私は 1997 年以来、この活動を先導してきたが、いまや日本は世界一の地域通貨導入国だ。しかし、東京の場合は人口やＮＰＯ数に比して数が少なく、全部で 29 しかない。

ここで、愛・地球博でのＥＸＰＯエコマネーの活用を紹介したい。ＥＸＰＯエコマネーは万博の来場者が「会場外のスーパーに買い物に行ったとき、レジ袋を辞退する」といったCO^2削減につながる活動をすると、ポイントが与えられる。来場者はポイント数に応じてエコグッズがもらえたり、植林に寄付するなどの特典をもらえる。今のペースでいくと、CO^2が１万トン以上排出削減されることになる。これは万博瀬戸会場の建設・供用時に排出されるCO^2の 3.3 倍にあたる量だ。CO^2削減行動は「楽しく、お得で、環境に優しい」取り組みがいい。



このＥＸＰＯエコマネーの仕組みを発展させた制度として考えているのが「エコポイント構想」＝図参照。この構想ではマークにより消費者は　　CO^2排出抑制につながる商品、サービスを認知し、さらに財団などが発行するエコポイントがインセンティブとなる。このシステムを導入することにより、生産者と消費者との協働によるCO^2削減へと結びつけられる。

■ 必要なサービス 住む人が提供 ■ 商店街活性化の道具にも

――地域通貨というと商店街を思い浮かべるが、エコマネーとの関係では　東京は全国一、商店街のある街。 その商店街にエコポイントを導入するというのが私の考えだ。すでに世田谷区の千歳烏山商店街などで実例があるが、それを発展させる。現在、経産省と国交省がまちづくり三法を見直しており、まちなか居住を促進する「コンパクトシティー」が基本方向になっている。環境への配慮や高齢化社会に対応したうえ、歩いて行ける範囲に商業地と居住地、公共サービスの提供がなくてはならなくなる。

中心市街地に住む人が、街づくりへの参加によりサービスを提供し、代わりにエコポイントをもらう。そのポイントを商店街が発行しているスタンプや、チェーン店のポイントと一定の比率で互換できるようにする。そうすればコミュニティー形成に役立つだけでなく、経済効果も期待できる。千歳烏山の場合はわずか 100 万円の原資（追加負担なし）で 1500 万円の効果を上げている。

――商店街の活性化につながるか。

2004 年度に商店街に対して行われた調査で「繁栄している」と回答したのはわずか 2..1%だった。そのうちの７割が繁栄の理由を「来る人が増えているため」と答えている。まずは人を集めることが必要だ。

エコポイントは、一緒に中心市街地をつくってくれる市民を集める効果もある。

さらにポイントを施設利用料の割引やテニスコートなどの優先予約といった公共施設利用に導入することもできる。財政難の自治体が多いが、知恵を出せばエコポイントの利用促進ができる。どうか。

これからの商店街はショッピングや福祉、医療、図書館などの文化施設など「複合サービス提供ゾーン」になっていかなくてはならない。そういうサービスの魅力で訪れる人が増え、モノを買ってもらえるというのがこれからの繁栄の仕方だと思う。エコポイントは住民参加を促進するとともに、商店街のにぎわいを回復する大きなツールになるはずだ。

蛭沢川・納涼夏まつり

7月のま～ゆ市＆生ビール会はご馳走いっぱい、生ビールたっぷり、ひでさんの名司会・進行により、色々な方の出番がありにぎやかで楽しい交流・交換会となりました。芸人？が多いのにびっくり！

会場を貸してくださった吉崎酒店様に感謝です。新入会の中島おとっつぁんも参加され、かじやさん、ごんべえさんと中島トリオ結成？

吉崎酒店の社長さんも挨拶

本当に久しぶりに荻原拓さんが参加して、古本ま～ゆ市を開きみなさんに好評を得ていました。彼は森林組合に勤務しているとのこと。木などについて知りたい方はご利用を。

真田町の豊田さん（彼も森林関係の仕事）は素敵なパートナーとお嬢さんのしほちゃんとご家族で参加。

丸山さんちは、息子さん夫婦に孫の楓太ちゃんも顔をのぞかせてみんなの注目を集めていました。

な、なんと、みっちゃんがエコ人力車？だったか名前は定かではありませんが、こみっとも参加して原町を中心に　柳町界隈を案内しながら走る自転車タクシーのようなものを実際に見せてくれました。これが思っていたより豪華なのでびっくり！これに乗って街中を走ってみたらまた違った町が見えてくるかも・・・・・かじやさん、まごさんたちの目ががぜん輝きだしました。そのうち自分達でも造ってしまうんじゃないだろうか？・・・・・。そして、まちづくりワークッショップからは矢島さんも駆けつけてくださいました。

裏方さん ご苦労さま

こうしたつどいの中でお互いに顔見知りになったら、”ま～ゆ”交換、お助けが頼みやすくなるんじゃないかと期待しています。

最後になりましたが当日の豚汁用野菜を寄付してくださったぶんちゃんありがとうございました。

ケイチャン 記

須川・じゃがいもパーティ・コミュニティ体験

No.100 アンジンこと 安 井 幸 次

８月７日(日)に、恒例となった「じゃがいもパーティ」が須川で開催されました。ま～ゆと須川の老若男女40名が集い、美味しく、楽しく、賑やかな交流でした。４月23日(土)に植え付けたじゃがいも(今年は天候の影響で小粒というのがひろ坊さんの解説)の収穫祭が本来の趣旨ですが、皆が持ち寄る料理も楽しみの一つです。

特に、初めて食べた丸なすの「みそおやき」は、絶品でした。家庭ごとに「おやき」があるとのことで、これこそスローフードですね。

さて、須川の田畑を借りての農作業と交流も３年になりました。私は、「コミュニティ体験」というれっきとした授業で学生たちと米づくりに参加しています。「百姓は毎年が１年生」という言葉があるそうですが、悪戦苦闘の連続の中で、毎年新しい発見があります。その最大のものが、田の雑草との闘いです。須川の前には、姨捨の棚田で６年間米づくりの体験をしましたが、草刈りを定期的にすることがオーナーの義務でした。その草刈りは畦のみで、田の中の雑草はほとんどありませんでした。この先入観(田の中には雑草は生えない)があったために、１年目は月１回程度の畦の草刈りだけのローテーションを組みました。これが大失敗のもととなりました。

田んぼは雑草が一面に繁茂し、もう手が付けられない状態となってしまいました(今年のま～ゆ田んぼの状態)。この雑草は、コナギ(紫色の可憐な花を咲かせますが、私たちにとっては敵です)、オモダカ、セリなどです。姨捨では除草剤を撒いていたために、田の雑草が生えなかったということを知ったのは、この後でまさに「後の祭り」でした。通りかかった須川のおじさんに、「手を抜いた罰だ」と言われ、全くそのとおりだと納得しました。

２年目からは、田の草取りが中心的な作業になりました。田んぼに入り、１本１本草を抜き取る作業は本当に重労働です(団塊の世代である私には、年々過酷な作業となっています)が、「無農薬農業とはこれほど手間隙がかかるものだ」ということを学生たちが直接体験する良い機会であるなどという教育的観点から耐え忍んでいます。

「コミュニティ体験」で米づくりをしようと考えた当初は、大学に来てまで何で米づくりなのかと敬遠されると思っていました(私も学生と一緒に授業で米づくりをするなどとは考えてもいませんでした)。しかし、選択制にもかかわらず、毎年10数人が参加しています。このような自然との直接の体験を求めている学生(若者)が増えていることを実感します(それだけ自然と子どもの距離が遠くなっているのでしょう)。

須川の人たちに田んぼを貸していただき、ごんべえさんやひろ坊さん、JA ファームの林さんの支援と叱咤激励を受けて、今年も自分たちで作ったという思いがあるから美味く感じられるお米を食べたいと思っています。

ま～ゆな人

会員ナンバー127
コボルこと
中村良子さん

さてさて、今回はま～ゆの編集委員を担当している中村良子さんことコボルさんの紹介です。

ちなみにニックネームであるコボルとは、ドイツ語で男の子の妖精（コボルト）という意味だそうです。ニックネームについては、結構前の会報に載っていたらしいのです。みなさん覚えていますか？また、知らない方々は今回の会報を読んで覚えて下さいね!!

コボルさんとま～ゆの運命的な出会いは、およそ３年前、上田市立図書館で見かけた ま～ゆの会報がきっかけだったと言います。しかしながら、会報に載っていた連絡先は不通だったらしく、諦めかけていた矢先に安井啓子さんから直接電話がきたといいます。

そんなコボルさん。名前から連想されるようにドイツが非常に好きで、いつかはドイツに行きたい、と夢を語っていました。ドイツとの出会いはドイツで人間啓発を行っている、とある会社との出会いだそうです。

コボルさんは現在、色々な仕事を掛け持ちしているそうです。ある時は着物の着付け、ある時はスーパーのレジ etc…。常に５つぐらいのバイトを掛け持ち色々なバイトをしているそうです。本人曰く「フリーターだ」と。平均睡眠時間は一日約５時間だそうです。仕事中は「楽しく!!」「お金に動かされない!!」をモットーに仕事をしているそうです。

ところで、コボルさんがま～ゆに入ってから思ったことは、「定職しながらま～ゆに参加している人が少ないうえに、同年代の会員が少なく、少し寂しい。」と言っていました。でも、ま～ゆの活動が非常に楽しく、時間があればちょくちょく出たいと言ってくれました。ま～ゆは自由で強制されることがなく、非常に心地よいらしいです。でも、パソコンがないと活動の連絡がないので、パソコンは欠かせないんだとか…。

今後もま～ゆを続けていくうえで、コボルさんのやりたいことは、文章を書くことだそうです。とにかく文章を書くのが好きらしく、興味を持った人や、しゃべってみたい人には積極的にま～ゆのインタビューをしているみたいです。また、文章を書きながら色々な人と話をしたり、出会いたいと言っていました。ま～ゆ市の時に、会員のところを回り、直接インタビューをしてみたいとも言っていました。一人が書く１ページの感想よりも、100人が１行ずつ書き綴る１ページを作ってみたいそうです。もし、ま～ゆの全国版の会報が存在するとしたら、コボルさん自身もその会報の担当を行い、自分がプロデュースするページを持ちたいそうです。編集委員をしていて困ったこともあるそうです。主にはパソコンのトラブルだそうです。せっかく作った文章がいきなりどこかに飛んでしまったりすることが度々あったらしいです。そんな時はパソコンに強い人に電話して、助けてもらっているそうです。

コボルさんが最後にこう語ってくれました。「人間は夢を持つことが大事。もっともっと夢を持ってほしい。夢を持って自分のしたいことを探してほしい。」と。

これからも夢を持って歩き続けるコボルさん。

彼女から ま～ゆの会員の皆さんにメッセージです。「今後も会報のインタビューに行く時はよろしくお願いします!! 」

天然記念人(?) トキ記

日本地域通貨フォーラムの報告

№15 みっちゃんこと 竹内 充

2005年3月18日に東京都、女性と仕事の未来館で「日本地域通貨フォーラム ～時代が変わる・社会が変わる・地域通貨で変わる～」がさわやか福祉財団主催で開催されました。会場には全国から地域通貨に取り組む団体のかたや研究者、マスコミなどが400人ぐらい集まり満席でした。

フォーラムは午前中に基調講演、午後は事例発表があり、その後はパネルディスカッションがありました。終了後は私たちもブースを出して他の地域通貨団体と交流しました。

基調講演の一人目は丸山真人さん（東京大学大学院 総合文化研究科 国際社会科学 教授）で「～地域通貨は何処へ行くか～」というお話でした。

先生自身がなぜ地域通貨に取り組むようになったか、地域通貨とはどういうものなのかというお話に続いて、カナダのバンクーバー島コモックスバレーで行われていたLETS（地域交易交換システム）との出会いのお話がありました。私が印象に残ったのは、カナダとイギリスのLETS の歩みの違いでした。LETS はカナダからイギリスに渡り、イギリスでは行政が積極的に介入し、ボランティアセンターが運営をお手伝いするなどの動きになったようです。しかし、カナダは行政から離れて自主的に運営を行うことを選択しました。結果は、LETS を考えたマイケル・リントンさんもイギリスに行ってしまったためなのか、カナダのコモックスバレーのLETSは現在お休み中になっているとのことでした。LETSというと地域通貨の中ではかなり有名で成功しているイメージを持っていましたが、そうではなかったことがわかり彼の影響力が大きかったのではないかなぁと思いました。

次にこの講演のテーマである「地域通貨はどこへ行くか」というお話になったのですが、先生自身、今後地域通貨がどうなっていくかよくわからない。日本の地域通貨は世界のそれに比べて多様なシステムが採用されているので、それぞれの地域通貨がシステムをよりよく伸ばしていき、多様化していくことがいいのではないかということでした。

基調講演2人目は岸本周平さん（トヨタ自動車 渉外部部長、内閣府政策参与）で「地域通貨の法的問題」というテーマでした。地域通貨が関わると思われる法律を挙げて話が進められました。「出資法」「プリペイドカード法」「紙幣類似証券取締法」等で、結論は現時点で地域通貨は日本銀行券を脅かすような存在にはなっていないため、特に心配することはありませんとのことでした。

事例発表は、千葉県市川市の「てこな」、兵庫県姫路市「千姫プロジェクト」、東京都渋谷区「アースデイマネー」、埼玉県小川町「FOODO（フード）」、三重県四日市市「循環者ファンド」、エコミュニティ・ネットワーク「エコクーポン・エコボンド・エコポイント」、さわやか福祉財団「時間通貨（時間預託制度）」の紹介が15分ずつぐらいありました。

「てこな」は住民基本台帳カード（いわゆる住基カード）を利用して、地域通貨を電子化したもので、総務省がかなりお手伝いをしている事業です。システムにはかなりのお金がかかっているようでした。

「千姫プロジェクト」は携帯電話やパソコンで残高の管理、取引ができる仕組みになっていました。ＩＴを取り入れているので会員は20代、30代が多いようです。いろいろなプロジェクトをやっていて、プロジェクトによって代表が代わったり、活躍する人が変わったりと、なんだかま～ゆ的なところがありました。

「アースデイマネー」はNPOに寄付することで地域通貨を発行し、企業・市民・NPOの三者間を循環するコミュニティ・ウェイという方法を参考に作られました。アースデイマネーでは寄付促進の一つの方法として「ガチャガチャ」のプラスチック容器の中に地域通貨を入れて、200円を入れてレバーをまわすと200円分の地域通貨がもらえるような寄付ボックスを作って喫茶店などにおいてあるようでした。

「FOODO(フード)」は生ゴミを液肥化し、できた液肥を生産者のかたに使ってもらい、収穫した野菜を消費者に提供するというシステムでした。生ごみを持ってきてくれたかたに地域通貨を払い、液肥を使って収穫された野菜を地域通貨で買えるような仕組みでした。液肥をつくるプラントも予想していたよりも高額な料金がかからずにできるようでした。

「循環者ファンド」はアースデイマネー同様、コミュニティ・ウェイを参考に作られました。市民が事務局に登録しているNPOへ寄付すると地域通貨が発行され、登録しているお店で使えるシステムになっていました。これに取り組んでいるNPO法人四日市創造ネットワーク代表の海山裕之さんには今年の8月2日に行われた長野大学 地域通貨講座にも来ていただきました。詳しいことは次の号の地域通貨講座のところで書きたいと思います。

「エコクーポン・エコボンド・エコポイント」はエコマネー提唱者の加藤敏春さんから説明がありました。「エコクーポン」は金融機関で、「エコボンド」は地方公共団体で、「エコポイント」は買い物などに使うといったような、それぞれのセクターに応じて違う通貨を使うようで、まだ構想段階ということでした。また、「愛・地球博」でEXPOマネーという地域通貨の実験を行うというお話もありました。

「時間通貨(時間預託制度)」は円を基準として通貨を発行するのではなく、子どもでも、大人でも30分の労働をしたら30分券、1時間だったら1時間券といった時間を基準にした地域通貨です。福祉的なものに多く使われているようで、浜松では小学生がボランティアをして「えびぃ」という名前の通貨もらうといったお話がありました。

パネルディスカッションでは堀田力さん(さわやか福祉財団理事長)がコーディネーターとなり、「地域通貨の理想と現実」というテーマですすめられました。パネラーは加藤敏春さん(NPO法人エコミュニティ・ネットワーク代表、エコマネー提唱者)村山和彦さん((株)みんなのまち　代表取締役、ピーナッツクラブ代表) 森野栄一　さん(ゲゼル研究会主宰、経済評論家)、そして岸本周平さんでした。

「地域通貨の第2の波をおこして行きたい。多様な地域通貨を組み合わせて協働を起していきたい」と加藤さん。

「実質活動してきた6年間でピーナッツの実効性、実証性が確認された。地域通貨をコミュニティビジネスに結び付けてはどうか」と村山さん。

「多様な部門が共和し、努力していくことが必要で、一次産業の部分を再生させることが今後重要になる。農業に組み込めば地域通貨は残る」と森野さん。

「NPOを中心とした社会づくりが必要でそのためには"質の壁、組織の壁、法律の壁"といったいくつかの壁を突破しないといけないだろう」と岸本さん。

これらのお話が印象に残りました。

パネルディスカッションが終わると同じ建物内の別会場で参加した他の地域通貨のブースが出てそれぞれの活動や方法について説明をしていました。20ぐらいの地域通貨紹介がされていました。ま～ゆも紹介ブースを出して都々平さんを中心に説明をしていただきました。いろいろ見てまわりましたが、パンフレットがしっかりしているところはありますが、ま～ゆのように会報を定期的に発行しているところは ここで見た限り会場にはありませんでした。「やっぱり会報を続けて出しているま～ゆはすごいなぁ」とほかの事例を見て改めて感じました。

メモを元に今回の原稿を書いたので不十分な点が多々あると思います。わからないところありましたら、一緒に行った都々平さん、安井さんにも聞いてみてください。

また、このフォーラムの報告書(A4・149ページ)が"さなぎ(事務局)"に置いてありますので、興味のある方はご一読ください。

■ 引用・参考文献　　日本地域通貨フォーラム冊子　2005　3月

■ 参考URL　　http://www.janjan.jp/area/0503/0503275011/1.php　JANJAN
「地域再生へ向けて「日本地域通貨フォーラム」開催」　3月28日
http://www.janjan.jp/living/0503/0503285070/1.php　JANJAN
「魔物がすまないお金？」　2005　3月29日

新入りです、よろしく。

8月、松木節子さんのお勧めで皆様のお仲間入りをさせていただくことになった山本通子です。下の記事は2002年の6月18日(火)信濃毎日新聞に掲載されたものです。失明の痛手を多くの方々の支えによって、ようやく乗り越えることができましたが、日常の生活の中でどうしてもお力添えいただかなければならない身に変わりはありません。

そこで早速ですが、

- 買い物と病・医院の送迎をお願いしたいのです。不測の事態に備えて、その間の付き添いもできる方にお助けいただきたいと思います。
- また、災害の際に安否の確認および連絡等、電話でやってくださる方がほしいのです。
- 私にできることは“肩もみ”ぐらいでしょうか。これをする場所があったらありがたいのですが。

なお、私に話しかけされる場合は、必ず「山本さん」と呼びかけてからにしてください。その後「私は○○です」と名乗っていただきたいのです。大勢が集まっている所では、肩を軽くたたいていただくと分かりやすいですね。

以上、よろしくお願いします。

無心で歌う点字の楽譜

上田でコーラスに情熱 全盲の山本さん

上田小県地域を中心とした母親コーラスの愛好家ら約百三十人でつくる「オラトリオしなの」のソプラノパートで、全盲の山本通子さん(六二)=上田市中之条=が歌っている。中途失明して十二年余。多くの仲間の支えと人一倍の努力で、夢中になって取り組んできた。来年六月の演奏会に向けた練習で、全身の神経を研ぎ澄ませ、一つ一つの音を丹念に聴き取っている。(矢嶋 正幸記者)

合唱団の最前列で歌う山本通子さん。楽譜の点字を左手の指でたどりながら練習に励む

山本さんが両目を失明したのは五十歳の時。生まれつき弱視だったが、十九歳で右目を失明。五十歳で左目の白内障の手術を四回行ったが、網膜剥離(はくり)により完全に光を失った。

合唱はもともと好きだった。「オラトリオ」を指揮している上田市出身のピアニスト峯村操さん(四〇)=文教大教育学部助教授=に、手術の半年前に出会った。「良かったらどうぞ」と、峯村さんが指導している市内のコーラス団体に誘われ、「手術で失明しなかったら一緒に」と答えていた。

しかし、視力を失った。退院後、部屋に電気がついているかどうかさえ分からない。何人も電話でコーラスに誘ってくれたが、心細く不安な生活の中で「合唱なんて駄目だ」と断っていた。

だが、代表の伊藤昭子さん(七五)=同市中央=が「何言っているの。無心で歌おう。やめるときはみんな一緒よ」と強く誘ってくれ、吹っ切れた。

周囲にはいつも仲間 来年6月の舞台へ全力練習

「練習の日までに絶対暗譜する」と心に決めた。録音テープを枕元に持ち込んで練習漬け。退院直後は三十時間かけてドイツ語曲を覚えた。

来年の演奏会では、「メサイア」(ヘンデル作曲)の十曲と「水のいのち」(高田三郎作曲)の五曲を披露する。途中にプロの独唱が入るが、女声三部合唱で一時間半ほどになり、楽譜は全部で百二十ページを超える。毎月一曲のペースで暗記しなければならない。楽譜には点字で歌詞をふってあるが、音程やリズムなどは耳で覚えるしかない。

合唱団の練習は月十回。うち週一回は必ず参加する。最前列で、指揮者の気配や息遣いを感じ取りながら、歌声を合わせていく。点字を左手の指で追いながら「たくさん頭に入れるから混乱している」と苦笑い。

周囲には、いつも仲間がいる。楽譜に点訳を付けてくれたり、ピアノで音を付けて教えてくれたり…。メンバーの一人で、練習の送迎に協力している会社員岡沢美祢子さん(五八)=同市下之条=は「山本さんが一生懸命だから、私も頑張れる。生きる姿勢がすごいんです」。

世話になった市内の夫妻が「楽譜が見えなくてもここまでやれる、というところまで頑張れ」と言ってくれたことが、忘れられない。「きつくてやめたいと思ったことは何度もあった。でも、これだけの支えがあって『できない』では済まされない」。山本さんは、自分を叱咤(しった)しながら打ち込んでいる。

にんげん紀行

ま～ゆ会員 自己紹介

名前	№147 河野孝志	№148河野三枝子	№164 佐藤貴之
出身地	東京都	東京	群馬県嬬恋村
血液型	O	B	A
性格	●始めるまでは細かいが、 後は　おおざっぱ ●聞くのも、話すのも好き	1 週間が 10 日ほしいという位何でも受け入れてしまう	のんびりしている
好きな食べ物	何でも	人の作ってくださったものなら何でも	からあげ
嫌いな食べ物	なし	● 臭いもの(ニンニク等) ● 辛いもの(四川省に行ってチンゲンサイの炒め物が食べられませんでした)	レバー
好きな人	話題の多い人	私と波長の合う人	●坂本龍馬 ●ジダン
嫌いな人	あいまいな人	理論ばかり言って動かない人	いない
好きなもの	動くこと	● 山を歩いて、草花を見て歩く ● スキー	サッカー
嫌いなもの	思いつかない	カラオケ	ゴキブリ
私の夢	80 歳になってもスキーをする	元気に過ごして、コロリと行くこと(ピンピンコロリ)	ザスパ草津の J リーグを生で見る

名前	№136 にゃんこ先生こと竹内紀子	№165 戸谷光夫
出身地	上田市の袋町で生まれ、材木町で育つ。 東京で 18 年暮らし、６年前にＵターン。	長野県
血液型	O	O
性格	●呑気かつ几帳面、大胆にして繊細、なんでもありの性格ですが、 ●おおむね引っ込み思案の内弁慶。 ●必要がない限りは黙ってます(黙っているのが苦になりません。)	明るくて暗いまじめな人
好きな食べ物	●自分で作るもの全部「嫌いな食べ物」以外の野菜。 ●豆と穀物全般、特に玄米と押し麦と全粒粉。 特に、蕎麦・ずんだ餅・味噌あんの柏餅には目がありません。	●肉類 ●おさしみ
嫌いな食べ物	●海藻（焼き海苔以外）・きのこ類（しめじと松茸とえのき以外） セロリ・蕗・うど・茗荷・生姜・納豆・人参・ココナッツ 一言でまとめると、匂いのきついものです。でもニンニクやニラは大好きです。 ●また、５年前に、肉・魚を食べるのをやめました。 玉子・乳製品もなるべく食べないようにしています。	ブロッコリー
好きな人	「嫌いな人」の対極にいるような人で、生きることを楽しんでいる人。	●コナンドイル ●GLAY
嫌いな人	●自分を省みることの無い人。●創造力の欠如した人。 ●人間のことしか考えずに、動物を犠牲にする人。	いないつもり
好きなもの	●歩くこと ●草むしり ●料理 ●言葉をいじくり回すこと。 ●良質かつ楽しい映画 ●読書 ●音楽ならロック	●古代文明の本 ●推理小説 ●宇宙の本
嫌いなもの	●大抵のテレビ番組、特に明るい内についているテレビ。 ●醜いものや卑しいこと。	●くも(虫) ●むかで
私の夢	にゃんこシェルターの親分になること。	大学卒業

私にとっての「ま～ゆ」

円の支出を半減する、所得倍増通貨。

No.114　宮 崎 省 吾

私が「蚕都くらぶ・ま～ゆ」に参加したのは、丸子町での安井さんの講演を聞いたのがきっかけであるが、基本的な動機は『地域』への関心からである。（私はかねてから住民自治に基づく地域の再創出が私達の生活を豊かにする唯一の方策であり、国を解体し、地域の連合体に再編成しないと将来はないと思っている。） 近くに地域通貨があるというだけで十分だった。別に「エンデの遺言」を見たわけでもないし、「地域通貨」の予備知識があったわけでもない。

私の入会の弁は、『「円」での収入が減ることはあれ、増えることはないという現実を前に、私の生活の向上を地域通貨によって図りたい』というものであった。なかでも、「円」経済が採算にのらないとして切り捨てる小さな助け合いの「決済手段」としての「地域通貨」に強い関心を抱いた。年とってくると、「向こう三軒両隣」的な助け合いが生活上かなりのウエイトを占めてくる。これを、従来からの「家庭内」や「共同体内」の「義務」としての「助け合い」で解決する方法は崩壊しつつあり、何らかの新しい方策を見出さないと一人一人の生活がやっていけなくなる。若しかしたら「ま～ゆ」はその救世主になるのではないか。

入ってみてわかったのは、地域通貨「ま～ゆ」に定形はないということだった。会員名簿とお助け一覧表はあるものの、誰が誰か分からぬものには動きようがない。1ま～ゆ＝1円という基準はあっても、値付けは見当もつかない。「円」のような自明さ（相場）がない。「ま～ゆ」の使い方が分からなかった。「ま～ゆ」市に出ても「ま～ゆ」が活発に流通してるという印象は薄かった。一方次第に分かってきたのは、既に安井一「家」もしくは田んぼプロジェクトといった「共同体」が存在し、これが「蚕都くらぶ・ま～ゆ」の実態であるということだった。この時、私はこの組織の名前が「蚕都くらぶ」と「ま～ゆ」の二つの部分からできていることが分かった気がした。「蚕都くらぶ」は単なる「上田」の代名詞ではない。共に楽しむ「倶楽部」なのである。助け合い組織としての「くらぶ」の創出が、手段としての「ま～ゆ」の目標なのだから、そしてそれは、ささやかながらも既に存在するのだから、「くらぶ」内で「ま～ゆ」が使われようが使われまいが大きな問題ではない。こういう認識があっても不思議ではない。だいいち小さな助け合いの一つ一つにお金（ま～ゆ）の話をするのは水臭いではないか。共に楽しむ「くらぶ」の本質に反する。金に汚いと思われはしないか。

こういう実態に対して、看板に偽りがあるのではないかという疑問が出てくるのはある意味当然である。先号の会報には鴇沢さんの『「ま～ゆ」不在のま～ゆの活動』の「不思議」さが率直に問われている。これは、私に言わせれば、『「ま～ゆ」不在の蚕都くらぶの活動』というべきであって、そうすれば「不思議」さも大分薄らいでくる。そう、「蚕都くらぶ」の活動に「ま～ゆ」は必ずしも不可欠な物ではないのである。

だが、本当にそうなのか。先日私はじゃが芋掘りに参加した。報酬はじゃが芋5キロとかなりのくずじゃがだった。隣におすそ分けしたものの、一人暮らしの私にはそれでも余っている。逆に5キロでも足りないという人もいるだろう。この余剰と不足を埋める手段として、ま～ゆ「市」の存在と決済手段としての通貨「ま～ゆ」は不可欠、少なくともあった方が大いに便利ではないだろうか。ことはじゃが芋に限らない。米にも個々の助け合いにも「ま～ゆ」による評価と決済はあった方がいい。貨幣経済の世の中、誠意や謝意を金（額）で表わすのは当たり前の話である。肝心なのは、「ま～ゆ」が役立つには「くらぶ」や「プロジェクト」の活動が存在していなければダメだということであって、その逆ではない。

ここを取り違えてはならない。

私は「ま～ゆ」は絶対必要なものというより、あった方がはるかに便利で得だという地点からスタートすべきだと思う。「ま～ゆ」の強制は避けるべきである。一方「ま～ゆ」の利便性の具体化にさまざまな試みがなされればいいと思う。既に味噌プロジェクトのように出来るかぎり「ま～ゆ」ですべてをカバーしていこうとする動きもあり、私のように原価は「円」で、利潤は「ま～ゆ」での取引を考えているものもある。いずれにしても、「ま～ゆ」はまだ不定形であるから、とりあえず「円」に対する既成概念をなぞりつつ、その過程で「ま～ゆ」固有の利便性を発見し、具体化していく以外に方法はないように思う。

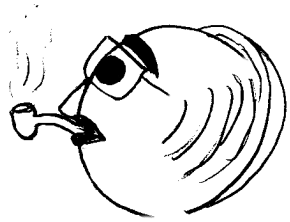
私の家計簿によれば、2004年の庭費（主として草取り）として、7万円以上を造園業者とシルバー人材センターに支払っている。時間数は正確ではないが、30時間を越えてないと思われる。もしこれを時給1,000円を原価として「円」で支払い、残り（業者の利潤）を「ま～ゆ」で支払うと、私の円支出は半分以下になり、実質的に私の所得は倍増することになる。一般的には小売（末端）価格は原価の3倍程度であるから、われわれが通常支払う金額の半分を「円」で支払えば、受取り手にとって悪い話ではないはずである。ましてもう半額が「ま～ゆ」でくるのである。これが、私にとっての「ま～ゆ」（円の支出を半減し、所得を倍増させてくれる通貨）である。

経済合理性のない動きは長続きするわけがない。同時にいくら「得」になっても、苦痛を伴うものは、定年まででたくさんである。楽しみながら助け合う『蚕都「倶楽部」』と得をする『地域通貨「ま～ゆ」』がお互いを必要とし、車の両輪として「蚕都くらぶ・ま～ゆ」を前進させていければと思う。微力ながら私も出来る範囲でその実現に参画していきたいと思っている。それが私の生活を豊かにする最も確実な方法の一つだからである

私からあなたへ

№103 大　野　里　司

沖縄料理、ゴーヤチャンプルの中華風（和風）アレンジ。



立秋（８月７日）も遠に過ぎて、更に処暑（８月２３日）も通過し、季節は孟秋も半ばに入る頃です。この原稿が活字になる頃はもっと進んで、仲秋の名月を迎える候になるでしょう。

今ごろ夏の料理はいささか時期を外していますが、これも何かの縁。或いは来夏に備えてと存じ、敢えて筆を執りました。

ゴーヤが沖縄を代表する野菜のひとつはご存知の通りです。今から 20 年ほど前は なかなか沖縄以外では目にすることが難しいものでしたが、ここ５年位前から よくスーパーで見かけるようになりました。色々の食べ方がありますが、チャンプルが簡単で沖縄らしい料理法と存じます。

■ 材　料（３～４人分）
ゴーヤ：(大き目のもの)１本、豚バラ肉 300ｇ、卵３個、豆腐(大)１丁、
副素材：サラダ油、ごま油、にんにくとしょうがのミジン切り、豆板醤、鶏がら、スープの素、あればXO醤、
※和風にするなら、昆布茶、酒、あれば泡盛(酒の代わり)紹興酒も可。

■ 作り方：ゴーヤはたて半分に切り、わたを取り除き ７～８ミリに切る。
豚バラはよく茹でて冷めたら切る。おおきめにすると豪快な感じがでる。

■ 準　備：鍋に湯を充分沸かしておく、
豆腐を適当な大きさに切り、火を通してざるに入れ水分を切っておく。
湯はそのままにし、次の手順と同時進行でゴーヤを１分ほど沸騰している中にいれます。熱を加え過ぎないこと肝要です。

■ 手　順：フライパンを熱し、サラダ油でにんにく、しょうがのみじん切りを炒め、豆板醤を加え辛さを引き出します。
この中にバラ肉とゴーヤをいれます、少しかき回した後、豆腐を入れる。
豆板醤の量はお好みですが大匙１杯が適量です。更に酒でといたスープの素、XO醤で味をつけます。
※和風が好みならば、豆板醤、スープの素の代わりに昆布茶を小さじ２杯入れます。

■ 仕　上：味は塩で調え、醤油と砂糖を隠し味程度に加えます。
最後にとき卵を割り入れ、ゴマ油を香り付けとします。
※和風の時は、削り節を振りかけるのも乙な味に仕上がります。

以上でレシピは終わりですが、古代中国哲学では
夏は赤く(朱)、苦い食物が身体によいとされています。特に心臓、小腸に元気を与えます。
春は酸味で青いのが肝臓、胆臓に効き、
秋は辛く白いものが肺、大腸によく、
冬は塩辛く黒い食品が腎臓に活力を与えるとされています。

次回は畏友　篠原　隆利さんにお願いします。

郡々平の ま～ゆな日記

7月12日

老人コンビニっておもしろそう。地域通貨に挫折はしたが北海道の美幌町は素敵なコミュニケーションの場を作っているという。長野大学の“連続講座”で知った この事例はとても刺激的で、構想の固まらない“寿限無„に「活かせそうだ」。同席のごんべえさんも深い関心を持ったようなので心強い。同じ北海道の栗山町は地域通貨の先進地として名を馳せていても「ちょっとくたびれている」状態とか。地域通貨だけが万能ではないことを知って、“ま～ゆ命„にぐらつきそうな気分もする。

7月18日

草刈り(ま～ゆ味噌用大豆畑)は梅雨明けというグッドタイミングだった。雨上がりをにらんで昨日MLで連絡したところ、13人も集まった。大勢でやるからこそ、こんなに草ぼうぼうでも手がつけられるし、結構楽しく作業できたので、今日もま～ゆの底力を見た思いがする。素人集団ながら「豊作になりそう」。平井寺の父も笑顔を見せていた。

ところが肝心の“味噌ま～ゆ通帳„を持っていくのを忘れてしまった。このシステムを提案しておきながらこんなミスを犯すなんて…反省。

7月24日

葉っぱのついたニンジンをいただいて「ミーすけは留守だし どうしよう？」。はじめに思いついたのは「インターネットで調べてみよう」で、早速検索したが、ふと「ま～ゆがあるじゃないか」と思い すぐさまこれを閉じてメールに切り替えたところ、返事が「来るは来るは」。●野菜ジュースに●てんぷら(かき揚)に●ほかの野菜と炒める●刻んで薄焼き 等々。ジュースは手順が間違ったのか旨くいかなかったが、てんぷらのほうは大成功。勤めから帰ってきた娘もめったに言ってくれない「おいしい！」を連発。

ネットを活用するのは確かに便利だが、どうせ聞くなら“顔の見える相手”を優先したいと思ったのがよかった。いろいろな料理法を教えていただいた“ありがたさ„は言うに及ばず、俺の顔を見て話しかけられている暖かさが迫ってきたように思えて本当にうれしかった。感謝感激、まさに“ま～ゆは私の命”です。

7月28日

県外の会員第1号。先日 兵庫県から「NHKテレビで拝見したので…」と電話が入った。上田の出身で「古い家を解体するに当たって家財等を片付けてほしい」とのこと。来田された70歳代の姉妹と従姉妹の3人にごんべえさんとを交えて「まず、ま～ゆの説明」をして入会手続きを済ませた。早速明日からこの作業を快諾するごんべえさんに3人が見せた「ほんとかしら!?」とびっくりしているような表情が印象的だった。「やっぱり、ま～ゆはすごい」。

後日お礼の電話があり「埃だらけ・汗まみれの仕事をあんなに快くやっていただいてありがとうございました。心の暖かい人に助けられて感激しました。ま～ゆがどんなものか分りました」と、驚きにも似た言葉が伝わってきた。ごんべえさん・孫の手さんは正に“気は優しくて力持ち!!„だ。

7月31日

ま～ゆを考える自由討論会に16名＋4名(メール)が参加。初の試みではあったが どなたも自由に発言されて、中にはチクリと厳しいご意見もあって、こんな機会でなければ言えないことが表に出された効果は大きいと思った。会報には おおむね現状の内容に肯定的で、いくつかの提案を生かしていけば、さらに魅力のある会報に進化するだろう。

ま～ゆに関しての意見は、大きな期待をする人から「楽しければそれでいい」派までかなり多面的で、地域通貨自体がそうであるように それぞれの思い入れを集約するのはなかなか容易でないように感じた。“みんな違って、みんないい„を基本に考えていけば、それなりに進んでいくと信じたい。

8月7日

須川の人が10人も参加しての“ジャガパー„は地元とま～ゆが一体感を色濃く持ち始めた思いを強くした。 一緒におやきを作り、ご馳走を囲んで歓談する雰囲気はプロジェクトをこつこつと続けてきたリーダーたちの汗によってできたことを忘れてはならない。欲を言えば、おばちゃんたちばかりでなく、おっしゃんも出てきてほしいけれど。

8月 10 日

壁の補修を真田のトットチャンから頼まれて行ってみたら、ほんの少し車で削っただけ。「他人の家だから直したい。隣の人は『そのままでいいよ』と言ってくださるけれど」とのことだ。色のついた霜降りになっている壁材なのでモルタルで埋めるわけにいかず「却って汚くなってしまうから、いくらか包んで謝ったらどうですか？」と同行の孫の手さんと進言した。「だったら、いくらぐらい？」トットチャンは想像を超える金額を考えているのでびっくり。ご近所との関係等の条件は計り知れないけれど、「こんな時こそま～ゆの出番」と思った。

8月20 日

廃棄処分やむなし、と思ったポンコツ自転車がよみがえった。3年前(そのころ会員だった)野倉の佐々木さんから 500 ま～ゆで譲ってもらった自転車はすでにタイヤがボロボロで「いつか取り替えなければ」と思っていた。そのうちに前輪がふらつくようになってきて「パンクしたら捨てる」つもりでいたところ、ご近所の孫の手さんが「俺の倉庫に拾ってきたのがあるからその輪っかを取り替えればまだ乗れるぜ」と嬉しいことを言ってくれた。そしてその時がきた。手を油だらけにして手際よく取り替えてもらったら、みごとスーイスーイと全然ふらつかない。エコ²生活にまたひとつ“リサイクル例„が記録された。

8月22日

イガチクが大評判。昨年の8割増しの収穫(90kg)でも「売れて売れて」お一人様1kg.限定にしたが、早くも在庫は底をつきそうな勢いだ。先日ふと気がつき、「ML で流せない人に知らせないのはまずい」と(顔も見たことのない会員を除き)FAX したら即座に 5 人から注文が舞い込んできた。少しばかり大変だけどこれをしなければいけないなぁ。それにつけても当初「まるで早い者勝ち」みたいに 1 人に 4 kgも 5 kgも気前よく渡したらしいけど、数量に限りのあるものには公平であってほしいと思った。

8月23 日

日中親善交流に“イガチクナスおやき„が一役買っただろうか？長野大学を訪れた中国･復旦大学の学生との交流夕食会が安井家で行われ、メニューに“地元のご馳走„として我が家自慢のおやき20個の特注が入った。イガチクも茄子もまさに地元(自元と書くべきか？)のしかも旬。ミーすけと念入りに作っただけあって、ことのほか上手においしく出来上がった。今やすっかりアメリカナイズされた上海の若い学生にとって、素朴な手作りの味でどれほど“にほん„を感じ取ってもらえたか分からないが、田舎の風物と共に大都市にないものに触れた効果はそれなりにあったかもしれない。こんな面でま～ゆが役立ったならうれしい。

ミーすけ流 **おやき** の作り方

＊ おやき(約 25～30 個)の分量の目安

小麦粉	５００ｇ
砂　糖	７０～８０ｇ
酢	６０cc
重　曹	普通のスプーン山盛り１杯
水	２４０cc

あんこ(具)は適当に

＊ 作り方

① 小麦粉･砂糖･重曹をよく混ぜてから酢をいれてかき混ぜる。

② 水を入れて耳たぶの柔さになるまでよくこねる。様子を見ながら水を足していきます。

③ 30 分ほど寝かせて、ピンポン玉大にち切り，あんこ(具)を入れてまるめる。

④ 具は丸ナスを 8 ﾐﾘぐらいに輪切りして切り目を入れ、砂糖･味噌･サラダ油を混ぜたものを挟みこむ。

※あんこはナスを薄く細く切って、砂糖･味噌･油少々で味付けをしたものや、切干大根や野沢菜の古漬け、または野菜を炒めたものを丸めたり、いろいろ工夫してみて下さい

(何度も挑戦すれば、自分流のおいしいおやきができるようになります)

(“エコ²家族„は今回お休みにさせていただきました。この夏は“ま～ゆ²生活„の方がはるかに多かったので…。)

自由討論会で出た意見です

7月31日、“ま～ゆに関する自由討論会„が開かれ、20名(内メール参加4名)が活発に意見を交わしました。

その前の編集会議で「会報って何のため？」「そもそもま～ゆの目標はなんだろう？」と根源的な問題が出てきたのが発端でした。

発足当時の会員が抱いていた“ま～ゆの夢”とか理念が、その後のま～ゆの動きと必ずしも同じではないかもしれません。後続の会員には入会の動機や期待感が多様で、これらをひとくくりにするのは実に困難であり、またそうすべきではないでしょう。全国に500以上もある地域通貨が(みっちゃんの報告文にあるように)実に多種多様であるように…。
しかし「何のためのま～ゆか？」を曖昧にしたままではま～ゆの存在意義はないと思います。地域通貨というツールを使うことによって、より豊かな地域と人間関係を築くために ひとつひとつ行動していくには、お互いの気持ちをぶつけ合って納得しあうことが肝要で、そのために今回のような試みを続けていきたいと考えますがいかがでしょうか。

【会報の感想・内容について】

☆

会報は会員相互間の周知徹底であり、会の活性化のツール。

☆

24 号まで続けられたことは、ま～ゆの財産。

☆

内容については、このままでいいと思う、レベルも高いと思う。

☆

良い会報だと思う。飾らないのが面白い。

☆

中身は自由で、今のままでいい。

☆

毎号表紙やイラストが楽しみ。活字ばかりの中に手描きの部分があるのはほっとさせられる。

☆

会報の意義は大きい。直接会う機会がなくても会報を通じて会員同士が互いを知ることが出来る、という点。おぼろげにでも相手の人となりを知っていれば、いざ必要に迫られてお助けを頼む際に頼みやすいでしょう。

☆

関心のあるもの以外はあまり読まない。イベントの予定は必ず目を通す。

☆

ボランティアなど色々活動している仲間の紹介,事例など,取り上げることは,大事。やってもらった人にも書いてもらう。

☆

会報は助け合いをたくさん載せていただきたいです。

☆

個人の趣味とかが載せてあると、人となりがでている。

☆

会報は会員のなかで回せばいいと思っていたが、知り合いの会員以外の人にも見てもらい楽しんでもらっている。外部に会報を出すことによって会員獲得になればいいと思う

☆

ま～ゆの実際の活動と、ホームページで見たり、人から聞いた活動が全く違っていた。

☆

催し物会場（田んぼ・畑等）の、道案内（地図）が欲しい。

☆

読んだ後の感想が欲しい、問題提起がつながらないと意味が無い。リアクションが欲しい。
紙面に感想などのコーナーを設けたら。

【編集について】

☆

原稿を頼まれたこともあったが、何を書いたらいいのか分からなかった。

☆

文を書くのが苦手。書けない人に無理に書かせないで。書いてくれる人がいてうれしい。

☆

読んでいて大変だな～と思う。

☆

編集委員、持ち回りでも良いのでは。

☆

編集委員の持ち回りは無理です。やれることに参加しましょう。

☆

原稿も集まるしタイヘンだとは、思っていない。体調悪い時は、すこしタイヘンでした。

☆

広報活動のために専任の担当者をおくことを考えてもいいのでは。その場合には、（今、会計をしてくださっている方々にもですが）会費から手当てを現金とま～ゆで出したらいいのでは、と思います。

☆

役員的な人への報酬が必要ではないでしょうか？
報酬が無いから無責任になるのだと思います。

【ＰＲと会報について】

☆
新しい会員を増やすにはどうすれば良いか、良い方法があれば、外にむけて、PR 誌も必要。個人的なものを削って、配るのも必要。

☆
PR 誌として考えていなかった。PR 誌ってなると、タイヘン。

☆
会報とインターネットの併用も考えてみたら？。

☆
会報とネット、PR 誌との関係、どうするのか？。

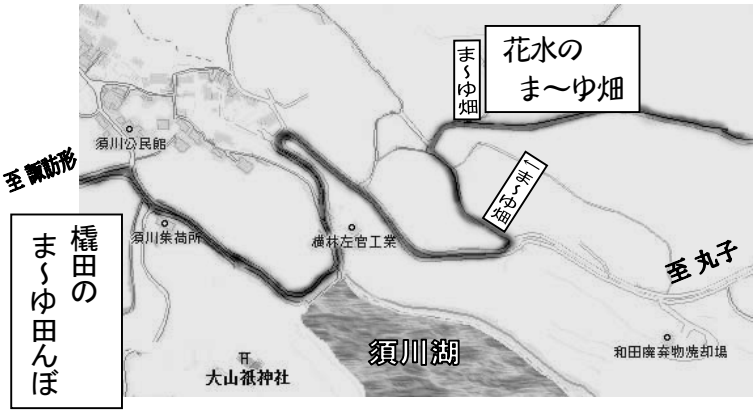
☆
ホームページは,更新が上手くいって無い

以上、当日出された意見を編集委員のメモを下に集約しました。中には発言された方の真意とニュアンスの違いがあるかもしれませんが、複数の委員の解釈に基づいていることをご了承願います。

また、諸々のテーマが論じられましたが、今号では“会報„に絞って掲載しました。

ま～ゆの運営とか、プロジェクトへの進言等、思いついたことがあったら、「メールで意見を述べる」とか「会報に投稿する」あるいは「世話人会やま～ゆ市で発言する」なり、考えられる手段で行動を起こしてほしいと思います。現にこの4年間、多くの知恵がま～ゆ活動に活かされてきています。常に進化するのがま～ゆの最大の特徴であることに誇りを持って…。

■ 早速、大豆の収穫を待っている須川と平井寺の畑の現地道案内図をここに載せます。



まーゆ　お助けの報告

畑にどんどん進出してくる木の事で、孫の手さんに相談した所、「おれにまかしときな」と力強いお言葉。

大根の種を蒔く頃までに出来たらいいなと思っておりましたところ、お盆前に奇麗に根を掘りあげていただき、昨日、種まき終了しました。石がごろごろの所なので、すこしずつ広げようとおもいます。

作業の時、一緒に来てくださったごんべいさんは、私たちがしゃべっている間に、畑の周りの草をきれいに刈ってしまい、仕事の早さに驚きました。こんなに奇麗にしていた事はないので、畑に行くのが楽しみになりました。

本当にありがとうございました。おもいきってお願いしてよかったです。　三井幸子

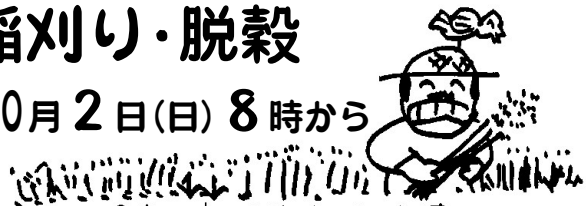
10月ま～ゆ市
10月10日（ ）
よる7時～
場所：中央公民館

紅葉狩り
ミステリーツアー
10月23日(日)㊐
担当はNo.50都々平さんと
No.96新の子さん

11月13日は
ま～ゆ総会&収穫祭

会場は中央公民館
総 会：10時から
お楽しみ 収穫祭
11時30分から

須川のま～ゆたんぼ
稲刈り・脱穀
10月2日(日) 8時から



▶担当はNo2ごんべいさんです。

須川のま～ゆ畑
麦まき
10月15日(土) 予定

編集を終って

猛暑の夏が過ぎて、秋が訪れました。スポーツに、行楽に、そして「なんといっても食欲だ!?」もいいでしょう。でも、もうひとつ“読書„がありますね。秋の夜長にこの会報をじっくりと読むのもいいですよ。

今号は「ちょっと固い内容になってしまったかな？」集まった原稿に目を通して私はそう感じました。前号の“ま～ゆに疑問„の記事や、“自由討論会„で「ま～ゆって、そもそも何だろう？ま～ゆはどこに向かっていくのか？」を問う声が表に出てきて、それがこのように紙面に現れたのかと私は解釈しています。“くらぶ„と“ま～ゆ„を分けて考える宮崎さんの発想はとても興味深く、幾度も読み返しました。

発足以来丸４年を経ようとしているま～ゆは161名の会員を擁するまでになりました。、“自由討論会„で出た多様な意見を活かして、より良い方向に進むためにも、この会報の役目は大きいと思います。思ったこと・感じたこと・ヒント等どんどん編集部に寄せてください。「書くのは苦手」だったら代筆も引き受けますよ。(その場合ま～ゆの支払いを覚悟してください。)

都々平 記

代 表　安井啓子
ま～ゆ連絡先　前田光俊
〒386-0041 上田市秋和 503-6
TEL 27-1230
ホームページ　(検索エンジンで地域通貨 ま～ゆ を開いてください)